

11 教員組織

進捗状況報告

文学研究科の専任教員は、2007年4月現在、文学研究科専任教員76人であり、内訳は教授64人、准教授11人、専任講師1人である。このうち前期課程指導教員は学部の教授をもって充てるが、博士学位を要件として准教授の任用を認めており、現在5人の准教授が任用されている。後期課程指導教員は、現在教授57人であるが、さらに准教授1人が後期課程指導教員として任用されている。2003年度に設定した目標のうち、前期課程指導教員への准教授の任用については促進されているが、後期課程への若手教員の任用については今後さらに必要に応じて対応していく方針である。なお、人事手続きに関しては、2004年度から文学研究科人事委員会が主体的に発議を行い、透明性のある厳密で適正な人事が行われている。新任人事において2006年度より近代・現代史担当の教員を任用した。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

学部准教授を後期課程指導教員に任用する問題は、「大学院教員及び大学院指導教員選考基準」が2005年度に改正され解決された。

学内第三者評価

研究科の指導体制の強化のために柔軟な人事が進められつつあることが評価できる。多様な学問領域における細かな指導体制を充実させるためにも、若手教員のさらなる参加を制度的に進めることを検討することが望まれる。